特集にあたって

若山　邦紘

福岡のAPORS94の年に，にわかに話がもちあがった「高校生のためのOR」研究部会が現在3年目の活動を行っている．OR誌における特集はこれが2度目となる．きわめて多忙な人たちがメンバーとなっているため，その会合も他の研究部会のように頻繁には開かれないし，作業スピードもなかなか上がらず，1世代前のプロペラ機が飛んでいるかのようなのんびりさを感ずる．しかし，宴会だけは欠かさないのには感心する．

初年度は高校生向きの教材作りからスタートし，特集を組み，メンバー以外の諸兄から率直な意見や感想を得た．1996年3月に和歌山県田辺市において和歌山県高等学校教育研究会数学部会とOR学会との共催でシンポジウムを開催した．懇親会の席で「何か力になることがあれば喜んで出向きます」と喋ったことがきっかけとなって，7月に参加者の県立日高高校数学主任の嶋田佳一先生から「出前講義」の要請をうけた．「田舎の学校ですが，本当に来てもらえますか」と．相手は自然科学科と普通科の理系志望の生徒たちである．「蒔いた種が芽を出したな」と思い快く引き受けた．

同校の生徒に対する本企画の目的は，

(1) ORの考え方にふれ，数学の現実での使われ方の一例と，ORという学問分野の存在を知らせる．

(2) 大学の先生の講義を受けることによって，大学進学への刺激を与える．

というものであった．また，和歌山県高等学校教育研究会数学部会の後援も得て開催することになった．

なにせ未経験のことなので，普段と違って実に念入りの打ち合わせが行われた．こちらは経験豊富な強兵のつもりで「心配しなさんなよ，うまくやるから」といっても，相手方はそうはいかない．かわいい子供たちの親だから「何をどうやってするんだ」と細部に至るまで納得いく説明がほしい．

道具はWindows95のパソコンでPower Pointを使用することになった．スライド見本を送り見てもらった．内容の大筋では大満足してもらったが，用語の点にまでいろいろと細部にわたりチェックをしていただいた．Power Pointでは，スライド上のオブジェクトを映し出す順序が簡単に制御できるが，向こうに送ったコピー資料だけを見たのでは，映し出す順序まではわからない．こんな点にまで質疑応答のFAXが往復する．しかし，細かく見てもらったおかげで，そのつどあちらこちら手直しができて感謝している．

高校生たちは始まるまでは緊張もし，大学の先生の話は難しかろうと心配をしていたようであるが，想像以上の興味を喚起し，参加した先生方にも大いに刺激を与えることとなった．我々が「高校生に直接メッセージを」と考えたことは間違いではないと確認できた．

当然のことながら，大学の授業をそのまま持って行っても絶対に受け入れられない．彼らに相応しい教材のテーマ選択は普段の我々の感覚だけでは推し量れない．また，数学や手法に関しては話を噛み砕いて「やさしく」しなければならないし，ビジュアルな授業のためにも相当な準備時間を覚悟しなければならない．

その後，1997年2月には県立田辺高校に高橋幸雄先生が，6月には逆瀬川浩孝先生が2度目となる日高高校へ出向き，これまで計3回の出前講義を行った．

本特集の構成は，①高校における「実戦結果の報告」として，これらの出前講義の教材内容や生徒たちの反応について報告記事（若山，逆瀬川），②高校生への教材のサンプル（柳井，古林，大山，田口，枇々木），③高校の先生への教材の提案（栗田），というように視点の異なる内容の原稿を集めてみた．

しかし，高校生のレベルまで「やさしく」書ききれていない部分があるかもしれない．それなら大学で使えるのではないか，というずるい考えもある．まずは気楽に面白く読んでいただければよいと思っている．

来春の仙台におけるシンポジウムは研究普及委員会から，高校教員を対象とした企画を立てるよう相談されている．これをきっかけに東北地方に出前講義が実施されることを期待している．この研究部会も今年度で終了することになっているがこのような活動はOR学会内に継続的な組織が必要ではないかと考えている．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．